

議 事 要 旨

日時：平成 21 年 1 月 21 日(水) 10:05～11:05

場所：新宿区役所 6 階 第二委員会室

1．開会

2．報告事項

- ・新宿駅周辺循環型バスの現在の状況について（事務局）

3．委員からの主な意見・質問

バスの運行計画その他詳細について

- ・バス停間の時間はどのくらいかかるか。

1 周 35～40 分の見込みであり、バス停が 10 箇所あるので、1 区間概ね 4～5 分になると思う。

- ・パークアンドバスライドを検討していると思うが、バス停近辺のどこに駐車場があり、容量はどの程度あるのか。

駐車場の容量は、西口全体として、日祭日のピークでも 1,000 台程度の空き容量があると考えている。都庁駐車場などに対して現在協力について調整中。なるべくバス停から近く使いやすい駐車場に、協力をお願いしている。

- ・起終点が都庁前ということについて。バス停の設置はよいが、都庁前はセキュリティや防災の面で、起終点としてバスが滞留することは好ましくないと思う。設置許可についてそのあたりの問題・課題はクリアしているのか。

起終点という言葉はまだ確定ではなく、また、かなり頻繁に運行する循環バスのため、起終点で長時間滞留するというのは考えていない状況である。時間調整をどうするかという点については、運行事業者と調整中。

- ・都庁は防災拠点なので、消防車などの緊急車両が集まるなどということがある。そこにバスが滞留するというのは問題だと認識している。

- ・運行開始時期はいつ頃を考えているか。車両設計やデザイン、製作期間などを考えていくと、どのくらい時間がかかるのか。

検討することが色々と新たに出てきている状況であり、新宿のまちに見合ったデザインなど議論を深める必要がある。事務局としては、拙速を避け、しっかりと練り上げて運行したいと考えている。改めてスケジュールを練り直し、次回の会議でご報告したい。

- ・バス停について、ユビキタスの導入を考えてはどうか。バス停に発信装置をつければ、待ち時間に携帯電話で情報が得られるようになっている。国でユビキタスの社会実験を行っているので補助金もあると思う。

情報発信として、取り上げられるものは積極的に考えていきたい。特別な機器が必要な場合やQRコードを携帯で読み込んで情報を得るものなど、手法が様々で確立されていないので、新宿で実験でやるかどうか、進捗をみながら取り入れられるものは取り入れたい。

ユニバーサルデザインについて

- ・導入する車両（中型ノンステップバス）のメーカー名、機種・型番を教えてください。

バス車体のメーカーや型番については、次回の会議で明確にお示ししたい。

- ・車いす使用者、バギー使用者、歩行器使用の高齢者などの利用があると思うが、バスの中の具体的なデザインはどうなっているか。
- ・バスデザインの聴覚・視覚障害者、弱視者への対応についてどこまで考えられているのか。
バス内のデザインは、東京都の福祉のまちづくりの指針に従って、手すり等については、視覚障害者にもわかりやすい高輝度のものを採用し、手すりには点字をつける。聴覚障害者対応としては、画面による運行等の案内を予定している。また、車いすの固定やバギー置き場の確保などを考えている。
- ・バス乗務員の研修は、スケジュールのどの辺りで行うことになるか。
研修については、事業者側の研修マニュアルに従って十分な研修を行う。時期は、第5回・第11回協議会の後、運行までの間に実施していきたいと思っている。場合によっては、障害を持った方々にも状況をお知らせし、公開しながら実施していきたい。
- ・高齢者や障害者への割引はどこまで考えているか。
高齢者、障害者への割引は、現在、運行事業者と検討中。
- ・バスのデザインを考えていく際に、実際にバスを利用する車いす、バギー、視覚・聴覚障害者、弱視者などが、車両デザインと同時に使い勝手を検討できる機会をつくってほしい。
- ・この循環バスは、コンセプトからしてもコミュニティバスとは位置づけが異なり、高齢者・障害者というよりも、買物客やバギーを使う人が多く来るのではないかと。バギーを考えたデザインをいれても良いのではないかと。一番良いのは、車いすや高齢者のことを押さえて、バギーにも使いやすいものにしてほしい。
バスデザインについて、設計図面の段階での議論が必要だという指摘をいただいた。事務局としても、バスを使いやすくする、また、利用者を増やしていくために、議論を深めていくことが重要だと思っている。寸法の入った図面ができた段階で、改めて会議を開催したい。また、場合によっては会議のメンバー以外の障害者や高齢者の方々にも意見を頂ける機会をつくり、最終的にバスデザインを決定する段取りをとりたい。
- ・バス会社では、中型ノンステップバスを貸し出すということもやっており、他の自治体では、バスを借りて、委員の人が実際に乗って、意見を出したりしている。中型ノンステップでは、車いすを2台乗せるのはスペース的に無理なわけで、車いすやバギーの乗車人員を増やしたいと思っても、座席の配置を変えることぐらいしかできない。そういう点は、現物を見ないと、図面だけではわかりにくいのではないかと。
- ・港区では、バスを2台借りて、想定ルートを走った。走る必要はないと思うが、車両そのもののチェックはできる。新宿の人数に応じて改造する場合、ここを変えてほしいと言えると思う。
事務局でどのようにするか検討し、スケジュール等が決まれば知らせてほしい。(会長)

会長・副会長からのコメント

- ・バス内のデザインについては、国交省で作成したノンステップバスの標準化仕様がある。手すりの色など様々な工夫がされているので参考にしてほしい。また、技術、特に弱視者への対応が発展しているので、バスのデザインをする際か設計の直前に、専門のデザイナーにも相談した方がよい。
- ・バギーや車いすの格納スペースについては標準通り設置する必要があるが、バギー使用者はかなり増えてきているので、椅子の横の何カ所かに、簡単に固定できるような工夫が必要。簡単に固定する方法があると思うので、検討してほしい。
- ・研修の位置づけについては、会議のメンバーでもある障団連代表に相談して、研修スタッフと

してお招きしてはどうか。また、プログラムを作るときには、運行直後でも研修ができるように、2月から検討してはどうか。

- ・高齢者等を対象とした割引制度については、必要性があるかどうかを議論したほうが良い。議論をきちんと経た上で、新宿区として、やるかやらないかについて、こう判断するという姿勢を持ってほしい。
- ・バスの車両等のチェックは非常に難しい課題。バス会社が設計図を書いた時点でデザインなどをチェックしないと意味をもたない。バス会社または区が設計図（仕様書）を作成して、メーカーに発注する直前の時点でのチェックが一つある。使い勝手については、スペックの段階で相当しっかりと検討しなければならない。バスができた後では、事後評価にしかならず、色やつり革の高さなどの部分的な修正のみで、総合的な修正はできないと思ってほしい。スペックの後でのチェックができるかどうか、区で検討してほしい。基本的な構造についての変更は、無理だと思う。
- ・車両のデザインについて。使い勝手と同時に、どのようなデザインのバスが走るかによって、新宿のイメージや、循環バスそのもののイメージ、また乗りたくなるかに密接に関わってくると思う。デザインを決めていく段階で、会議のメンバーを中心にみなさんに意見を聞いた方がよい。トータルデザインのイメージを具現化するにあたっては、慎重にやったほうがよい。
- ・車両をデザインするときに、バギーを何台入れられるかというスペースの問題、バギーをどこに配置するかという配置の問題があり、車両（仕様）の根幹に係わる。最低限車いすスペースが1台、可能ならばバギーが1台止められるようにする感じかと思う。車両については、議論できる材料が集まったら提供して頂き、きちんと議論していこうということが意見として上がってきているので、よろしくお願ひしたい。
- ・会議という形ではなく、バスデザインに対する意見交換会のような形で、自由に意見交換できる場を設定してほしい。その交換会に、我々やそれ以外の方にも参加する形が良いと思う。
- ・図面と現物とどちらもあるのが一番良い。具体的に現物を見て意見を出してもらい、コンセプトについて案を練るのが分かりやすいと思うので、可能であれば区のほうで検討してほしい。

次回の会議について

- ・次回の開催に向けて、スケジュール等を詰め直し、改めて報告したい。

以上